

～京都の伝統的景観を守る新たな一手～

路地奥の再開発 伝統構法で建てる新築京町家分譲プロジェクト

(株)八清が、伝統構法で造る新築京町家分譲の現場見学会を行います。

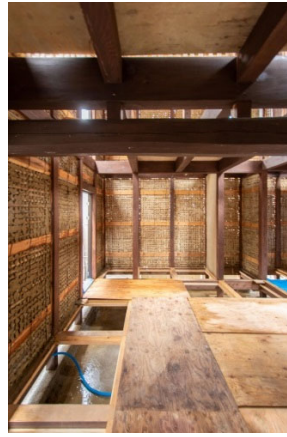
京都の町並み・歴史・文化の象徴である京町家が近年あちこちで取り壊され、伝統的な町並みが急速に変化しています。事実、この7年間でおよそ5000軒もの町家が消失してしまいました。（平成29年度京都市調査） それに危機感を覚えた京都市も、減少する京町家に対して一定の歯止めをかけるための新条例（京都市京町家の保全及び継承に関する条例）を昨年11月に制定しましたが、取り壊されていく町家は後を絶たず京都の伝統的な街並みは失われる一方です。

私たちも不動産流通業者として、この15年ほど京町家の保全再生に取り組み、さまざまな活用提案を行ってきました。しかし、私たちが取り組む保存再生を上回るペースで京町家は減少しています。そこで、「保存再生」だけではなく新たに「増やす」という発想に至りました。

このたび、本来新築することが難しい路地の奥で、伝統構法により京町家を4棟新築分譲します。

<https://www.hachise.jp/project/tsumugi/>





後世に受け継ぎたい日本建築の伝統技術・・・

伝統構法は、木組み・石場建・土壁の3つの要素で構成されます。木を刻み、木材を組み上げて造る構造、竹を編み土を塗り重ねる壁など、先人が積み上げた智恵の結晶です。繊細で巧みな手仕事と、自然素材でできた建物は味わいある質感と温かみにあふれ、人の心を惹きつけてやみません。本プロジェクトはそのような日本が誇る建築技術を伝承していく場でもあります。

新耐震基準を満たす伝統構法の京町家・・・

伝統構法で行う新築は、個人住宅規模の建築確認の審査では通らないため、現行法の新耐震基準を満たす構造計算（今回は限界耐力計算を採用）を行い、建築確認の審査を通す必要があるため難易度の高い建築といえます。私たちが主事業でおこなうリノベーションでは数字上で実証することが難しい耐震性を担保した安心・安全な京町家をつくるべく、京町家を新築することにチャレンジしています。

一棟では再建築困難な路地奥の再開発・・・

そして今回もう一つのチャレンジが、再建築が困難な路地奥の土地の有効活用です。隣地の所有者様の協力のもと、「連担建築物設計制度」を適用させ既存の建物を含む一団の敷地として、単独敷地では再建築できない土地の活用を試みています。

新築京町家分譲プロジェクト「京つむ木」
2019年1月ごろ完成・販売開始予定

関係者向け現場見学会 10月13日（土）

午前10時～午後1時まで

会場：京都市上京区六軒町通一条上る若松町 352

地図：<https://goo.gl/maps/fKW2teobnKr>

私たちが創る「京つむ木」が、古くから受け継がれる伝統構法の技を未来へ伝えるきっかけとなり、京都の美しい街並みを少しでも将来に受け継ぐ新たな一手として世間に浸透することを期待します。

【会社概要】

■会社名：株式会社 八 清 （ハチセ）

■住所：京都市下京区東洞院通高辻上る高橋町 619 番地

■業種：不動産業

■設立：1956年（昭和31年）7月3日

■連絡先：075-341-6321

<https://www.hachise.jp/>

■担当者：暮らし企画部プロデューサー 波多野哲也

＼ 関係者向けの現場見学会開催 ／

2018年10月13日(土) 10:00-13:00

伝統工法で建てる、新築京町家分譲プロジェクト

"100年先まで、未完成"



京つむぎ
KYOTSUMUGI



京つむ木

KYOTSUMUGI

